

## 讀者の領分

注

長文及び水彩畫は無関係のものに御座る。  
◎印は編者の答、投者の要點のみを掲ぐ。

■とある森の茂みて寫生をしてゐたら、傍の小川に小供が釣をしてゐたが、忽ち盆を覆すやうな雨に驚いて、狼狽したその姿はよいボンチであつた(鹿兒島、畫甫)■うつくしきおのづからなる姫神のみ下にたかき秋を證せん(晩韻生)■月刊スケッチといふ雑誌は近いうちに二度迄も體裁を更へた、あれでは他日日本の時困るから、みづゑはそのやうなとないやうに希望する(愛讀者)◎みづゑの體裁は此儘でやるつもりです■始めて寫生に出た時は人に見られるのが耻かしいやうで、穴でもあつたら這入りたかつた(孤崖生)■1 文部省中等教員圖畫試驗案内を御掲載下されたし。2 圖案畫法を御掲載あらんとを乞ふ。3 人物描法を示されたし(肖像畫位ひにても)4 審美學の初步を講ぜられたし。5 地方に在て肉筆の參考畫を見る事を得るの便宜を開かれたし(地方獨習者の大必要)の繪葉書よりも畫面の大なる普通の水彩畫稿を募集せられたし

(垂虹生)◎1、2、3、4 は道々御望に應ずべし。5 はよき方法あらば御示下さい。地方によつては隨分不信用な方がありますから、制限なしに繪を御貸申ことは出来ません。6 計畫中■1 繪葉書競技會を毎月二三回以上開かれたし。2 同時に畫學紙ハツ切位ひの水彩畫交換も願ひたい。3 みづゑ紙上にハガキ集といふやうなものを設けて交換の繪ハガキ評をしたら利益が多いとせう。諸君御賛成を(お茶の子)◎1 毎月一回でさい中々忙しいのですから當分御望に應じかれます。2 計畫中3 本號から實行しましたからドシ／＼御投書を願ひます。■白馬會は新作がいつもよりは少なく殊に水彩畫は振はない(黒式部)■私が水彩畫を始め出したのは忘れもしない二年前の秋で、青梅の珠郎氏に勧められて上手下手は自分の腕次第と奮發でやつて見たが、幾度となく失敗して終には失望のあまり筆を捨てた事もあつた(珠翠生)■一尺五寸の畫板を携へて此夏旅行したが、汽車の改札口を通る時間へて大閉口であつた。吾々初學者には、普通石版三枚續き位のものに洋紙を貼

つて用ふるのが一番便利だと思ふ(越後靜遠)■白馬會で小林萬吾氏の油繪を、硝子がかゝつてゐるから水繪と間違へて友人に笑はれた(うっかり坊)■1 みづゑの四號は印刷も製本も駄目だ。2 毎號鉛筆畫の講話を出して下さい。3 來春の初刷には美術雜誌の模範となるやうなものを、出して下さい(長野QQ生)◎1 別に前々より劣つてゐると思へませんが、多くの中には不出來のもありましたらう、爾來注意致します。2 只今さる人に依囑中。3 御承知の通り消樂雜誌ですから、びまと金のある時のほかは、たとへ新年でも特別の設備は出来ませんが、何か御年玉位いはつけます。■みづゑ愛讀者の大寫生會を催しては如何(牛込横好生)◎いつか實行いたしませう。

## 近事雜聞

△太平洋畫會の新研究所は最早落成に近づきしを以てこの天長節の佳辰を期して盛んなる開所式を擧げ會に關係ある人士を招待する筈にて當日は餘興として即興詩人其他二三の素人演劇もあるよし  
△學習院輔仁會にては去月十八日大會を開き別々に櫻虹會々員の作る水彩油繪九

十七點を陳列して來賓の參觀に供したり  
△この程石州濱田中學校内に開かれし繪畫  
展覽會は同校圖畫教師杉浦頼武氏出品の參  
考畫も澤山あつて中々盛會なりしといふ

△但馬、由利氏へ。追々御希望に副ふやう  
に勉むべく候

△相模、大橋氏へ。御送りの繪は遠近法の  
間違あり、且主體なく圖柄も陳腐に見受候。

△陸前、海老名氏へ。御入念の作なれど左の  
方省筆に過つて圖柄かたより申候。一層御研  
究ありたく候

△京都、北村氏へ。保津川の景對岸も前景  
も同一筆法にて奥行見え折角の好畫願今  
一工風ありたく候

△周防、久保氏へ。御寄稿面白く拜見いづ  
れみづゑ紙上を飾り可申候

△神戸、枯星氏へ。御手紙ありがたく候

### 新刊(十月廿日迄に寄贈を受けし分)

- 英學生 二ノ十、十一 東西社
- ハガキ文學 二ノ十五 日本樂書會
- 同一週年紀念號 同
- 美術新報 四ノ十二、十三 畫報社
- 文庫 三ノ一 内外出版協會
- 家庭の友 三ノ七 同
- 向上主義 十三、十四、十五 久友社
- 白百合 二ノ十二 東京純文社

●彼 着 一ノ四 一圓正城氏

●國民評論 八 國民評論社

●音 樂 八ノ六 樂友社

●美しき音樂エハガキを添えたり

●心の花 九ノ十 竹拍會出版部

●歐 舞 六十六 歌舞伎發行所

●市川團十郎追善芝居の記事多し

●能 樂 三ノ十 能樂館

●卯杖(慰問の巻) 秋聲會出版部

●諸家の繪畫及美文ありて賑やかなり

●新 潮 三ノ四 新潮社

●學 燈 九ノ九 丸善株式會社

●シヤシン月報 十ノ九 小四木店

●日本園藝雜誌(新秋の巻) 日本園藝會

●園藝の友 一ノ四 園藝研究會

●日本美術聲若の巻 日本美術社

●口繪の鮮麗なるは此誌の特色、森田氏の  
人體の形相は人物畫に志す人の必讀すべ  
きものなり

●新 文 藝 二ノ十二 新文藝社

●帝國文學 十一ノ十 帝國文學會

●青 春 四 青春社

### 會 告

●學校又は同志の間に、寫生會、エハガキ  
會等の設けあるものは、其景況をなると  
く詳しく通報せられたし  
●前項團體及び個人の作品の現物、若くは  
寫真を寄贈せらるれば、優秀なるものに

限り、寫真版に付して、本誌に登載すべ  
し但作品ははがき大に限る

●左の事項につき廣く投書を求む

□水彩畫に志せし最初の動機

□始めて戶外寫生を試みし時の感

□寫生中に起りし興味ある出來事

□畫を學びし爲めに得たる顯著なる利益

□其他水彩畫に關する意見報導小品文等

●以上、切の期を定めず、半紙十行二十字  
詰にて、簡單に、字體明瞭に認められたし

●繪畫及寄稿にして、本誌に登載せしもの  
(讀者の領分欄を除く)には、主任天下藤

次郎の内筆繪葉書一葉を贈るべし

●投稿の返戻を望まらるゝ方は、相當の郵券  
を添へられたし

●水彩畫に關する質問にして、一般讀者に  
有益と認むるものは、答へを紙上に掲載  
すべし、但初めより返信料を添へられし  
ものは直ちに答書を送るべし

●眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に  
答へらるべし。

●但複雑なる圖説を要するものは此限りに  
あらず